

# 長久手市の財政状況を考えよう

みなさんは長久手市の財政状況をどのように把握していますか？人口もお店も増えている長久手市。「それなら、市が自由に使えるお金もたくさんあるだろう」と思われる人も多いと思います。

しかし、本当にこれからも今の行政サービスを維持していけるのでしょうか？今回は家計簿に例えて、長久手市の財政状況をお伝えします。

## 10年前と比べてみる。

一般会計予算を、1年の収入が552万円\*（月平均46万円）として家計簿を作成しました。  
\*厚生労働省実施の「平成30年国民生活基礎調査」平均所得額より

収入		2010年	2020年	
市税▶	給料	194,369円	261,716円	↑
使用料・諸収入など▶	パート収入	24,954円	30,256円	↑
	預貯金切崩	28,806円	20,821円	↓
国庫支出金・県支出金▶	扶養・児童手当等	64,914円	124,272円	↑
市債▶	銀行からの借入	24,755円	22,935円	↓
合計		337,798円	460,000円	
支出		2010年	2020年	
人件費・予備費▶	食費	76,333円	104,999円	↑
扶助費▶	医療費・保育料・学費	49,453円	86,658円	↑
公債費▶	ローン返済	16,214円	13,030円	↓
物件費▶	光熱水費・被服費	64,546円	94,009円	↑
補助費等・繰出金▶	親の介護費	49,642円	107,897円	↑
積立金・貸付金など▶	預貯金・投資	6,632円	1,181円	↓
維持補修費・普通建設事業費など▶	家の修繕費、家財購入	74,978円	52,226円	↓
合計		337,798円	460,000円	

**収入** 人口増加や市街地整備などにより、市税収入が大きく増加しました。さらに、市が実施する事業規模が大きくなったことで、国や県からの補助金等も増加してきました。

**支出** 人口増加等に伴う行政規模の拡大により人件費や物件費が増加してきました。また、こどもの増加により子育て支援関係の扶助費が増加し、高齢者の増加により介護保険や後期高齢者医療の特別会計への繰出金も増加しました。一方で、普通建設事業費などの経費は減少してきました。



## これからはこれまでのように税金は伸びない。

50年前の長久手市は、見渡す限り田んぼと畑、山林が広がるのどかな田舎でした。昭和40年代以降、土地区画整理事業により市の西部が良好な市街地として整備されたことで、人口は増加。税金は年々増加してきました。しかし、今後は、土地区画整理事業の収束に伴い、税金の伸びは鈍化する見込みです。



## しかし、増え続ける支出。

本市の人口推計によると、今後もしばらくは人口が増加し、子どもの数はわずかに減少するものの、高齢者の数は大きく増加すると見込まれます。

今後は、人口増加により既存の事業費は増加し、高齢化の進行に伴う認知症対策、孤独死対策や公共施設の老朽化といった新たな行政課題にも対応していく必要があります。



## 使い方を考える。

現時点では、本市財政の健全度を測る指標はいずれも健全です。しかし、今後**支出のみが増え続けると財政は破綻**します。財源が限られる中、人口減少社会を見据えて、お金の使い方を考えていく必要があります。



来月号以降では、医療費や公共施設の使用料についてお知らせします。